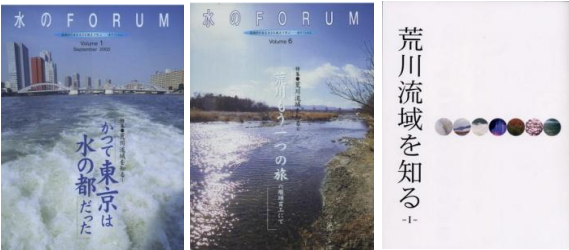
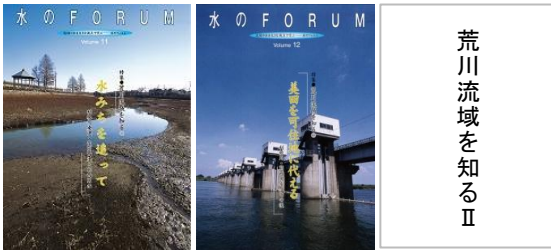





## 「流域の健やかな水ネットワークの保全」に向けて—水のフォーラムの活動

活動	得られたこと	次のステップ
<p><b>&lt;流域のさまざまな水を学び、情報発信&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●『水のFORUM』1～10号を発行。</li> <li>●特集記事で下流から上流に遡り、下水を通じて海へ戻る。</li> <li>●特集を合冊し、『荒川流域を知る I』発行。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「水は歴史」の意味を理解。それを前提に現在の水問題を考え、情報発信。</li> <li>●「水を追いかけたら田んぼに行き着いた」。流域の水を学んで得た結論が見沼田んぼ保全のバックボーンとなって、実践活動を支えている。</li> </ul>	<p><b>&lt;水のフォーラムからの提言レベルアップ&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●『水のFORUM』11～20号を発行し、『荒川流域を知る II』にまとめ、荒川(埼玉)の水をより充実させて情報発信。</li> <li>●流域の水を通じて環境保全のための提言をレベルアップ。</li> </ul> 
<p><b>&lt;見沼田んぼ・見山地区で水のフォーラム市民田んぼ&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●農家との協働に向けて、農家の信頼を得る活動から。</li> <li>●流域の健やかな水ネットワークに資する循環型伝統農法による米作り。</li> <li>●循環型伝統農法のためのヤマの整備。</li> </ul>  <p>農家と一緒に、春は用水浚い、夏は用水路草刈</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●都市住民(非農家)に農地5反を開放。市民の米作り・森林再生活動の受け皿に。</li> <li>●実体験から農作業のみならず日本の歴史・文化・二次的自然などを学ぶ。</li> <li>●活動地の環境、及び下流の水質改善に向けて、農家との協働がスタート。</li> </ul>	<p><b>&lt;山—川—用水—田—排水河川—海をつなぐ— 上下流市民の理解と協力&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●農家と市民の協働をさらに推進し、循環型伝統農法を拡大。</li> <li>●循環型伝統農法で東京湾の赤潮・青潮を減らし、干潟を保全。</li> <li>●上下流の協力で多面的機能を発揮する森林管理。</li> </ul> <p>県との協働で、多面的機能を発揮する森林管理に向けた上下流交流会</p> 
<p><b>&lt;さいたま・水とみどりのアカデミー&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●水のフォーラムの活動をさらに充実、補強するために、また専門家が抱え込んでいた知識を広く市民に公開するために、市民講座「さいたま・水とみどりのアカデミー」を開設・運営。</li> <li>●講義録を作成し、広く配布し、専門知識の啓発普及。</li> </ul>  <p>休憩のお茶は障害者施設のクッキーと狭山の紅茶</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自ら学んできたことに専門的・科学的知識が加わり、水のフォーラム活動がより充実・強固に。</li> <li>●講座内容から、市民活動リーダー、一般、行政より、高い評価を得ている。</li> </ul>	<p><b>&lt;さいたま市民&amp;市・水とみどりの共学事業— 市民と行政の理解と協力に向けて&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●さいたまの市民と市が共に学べる場を提供し、学習内容を広く発信する。</li> <li>●市民と行政が共通認識・言語を増やし、同じ土俵で議論できるようにする。</li> <li>●市民と行政、共通の理解をもって課題を整理し、できるだけ多くの合意を得て課題解決のための体制を作る。</li> </ul>